

1. R2030立命館大学チャレンジ・デザインにおける位置づけ
2. 研究の国際展開を目指す現行制度の現状
3. 国際共同研究促進プログラムグローバル拠点型について
4. 参考情報

1. R2030立命館大学チャレンジ・デザインにおける位置づけ

挑戦をもっと自由に

Challenge **your** mind
Change **our** future

新たな価値を創造する次世代研究大学

イノベーション・創発性人材を生み出す大学

2つの柱

次世代研究大学

||

社会共生価値の創造を志向し、
多様なネットワークとのつながりに開かれた大学

イノベーション・創発性人材

||

社会共生価値の創造を志向する、
オープンで創造的な知的生産者

1 — Ritsumeikan Knowledge Nodes構想を核とした次世代研究大学の構築

2 — 研究力の向上と教育の高度化をつなぐ教育の展開

3 — 多様化する学習者に向き合う学びのシステムの適応性の向上

4 — オープン・イノベーションを推進する多元的な連携の構築

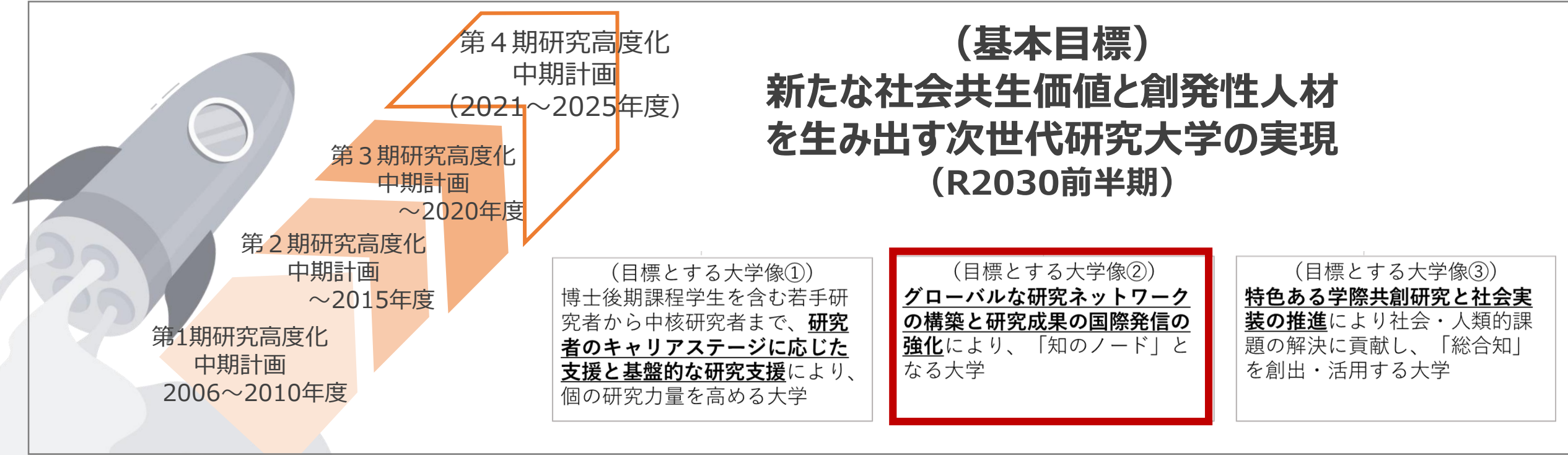
5 — 多様な個を新しい価値の創出へと導く組織変革

5つの
チャレンジ・デザイン

国際レベルでの高度で多様な研究を進める「次世代研究大学」へ

1. R2030立命館大学チャレンジ・デザインにおける位置づけ

立命館大学では5年毎の研究に関する中期計画を策定し、今期「第4期研究高度化中期計画（2021年度～2025年度）」においては、海外研究ネットワークの形成支援の強化を掲げている。



<第4期研究高度化中期計画の目標> *カッコ内は2020年度実績を表す

Key Goal Indicator (KGI)

- QS世界大学ランキング 301～400位 (801～1000位)
- THEインパクトランキング 101～200位 (201～300位)
- Top10%国際共著論文 160本/年 (80本/年)
- 科研費大型種目< A以上 >採択数 10件/年 (5件/年)
- 外部資金獲得額 50億円 (33.5億円)

Key Performance Indicator (KPI)

- 科研費各種目の採択件数、金額 790件 (690件)、18億円 (14億円)
- 産学官地連携による外部資金額 11億円 (7.3億円)
- 海外派遣研究者数、受入研究者数 1,334名 (7名)、440名 (140名)
- 国際共著率、ハイパクトジャーナル数 33.3% (29.2%)、200件 (94件)
- 研究所、研究センタープロジェクト等への大学院生の参加者数

2.研究の国際展開を目指す現行制度の現状

6	国際共同研究促進プログラム	海外の有力大学との研究連携および海外研究者との研究ネットワークの形成と国際共同研究を促進することで、RKN (Ritsumeikan Knowledge Nodes) を具現化し、国際的な認知度向上を図ることを目的に、本制度は実施されます。	共同研究型 上限400万円/年 (2年間) スタートアップ型 上限100万円/年 (1年間)
7	ANU-RU Visiting Researcher's Program	オーストラリア国立大学(ANU)の研究者と本大学の研究者が共同で研究を行うことを支援するプログラムです。「受入スキーム」「派遣スキーム」ともに相手方の大学に短期間(最長3か月間)滞在することを前提にしています。	受入スキーム:研究活動支援金上限100万円 派遣スキーム:ANUとの調整の上決定
8	ノースウェスタン大学との協力協定に基づく成果発信プログラム	ノースウェスタン大学が所管するMeridian 180という学術交流プラットフォームで議論を行った結果を基に、ノースウェスタン大学の出版局からe-bookを出版することを目指すプログラムです。	全体予算の上限 500万円
20	ハイ・インパクトジャーナル投稿支援プログラム	影響度の高いジャーナルへの投稿を積極的に支援します。	校正費 (上限10万円/1件) 投稿費 (上限40万円/1件)
22	研究成果国際発信制度 (研究者海外渡航支援制度)	研究の国際的な発信を目的として、国外で開催される国際的な学会・会議などにおける、成果発表や国際的なネットワーク形成に要する旅費を支援します。	10万円 (上限)
23	研究成果国際発信制度 (外国語論文投稿支援制度)	研究の国際的な発信を促進することを目的として、外国語論文の投稿に必要な外国語論文校正費および論文投稿費を支援します。	外国語論文校正費 (上限5万円/1件) 外国語ジャーナル投稿費 (上限5万円/1件)
24	研究成果国際発信制度 (海外研究者短期招聘支援制度)	国際的な交流やシンポジウムの開催時に海外研究者の招聘を支援し、国際研究交流の加速を図ることを目的とし、招聘にかかる経費を支援します。	20万円 (上限)
25	研究成果国際発信制度 (外国語HP作成支援制度)	研究の国際的な発信を目的として、ホームページを外国語対応させる際に必要な経費を支援します。	20万円 (上限)

国際共同研究促進プログラム概要

	区分	連携イメージ	支援金額期間
助成区分	スタートアップ型	個人またはグループが海外の大学等に所属する研究者と共同研究を実施するもの	100万円/年 1年間
	共同研究型	海外の大学等との共同研究による研究成果創出を目指して、組織間での共同研究を実施するもの	400万円/年 2年間
申請時の要件	①「スタートアップ型」に関しては、組織間で共同研究に発展させる意思があること。 ②「共同研究型」に関しては、助成対象期間中には、 相手先となる海外の大学等と共同研究契約を締結 すること。 ③国際共同研究加速基金や学術国際交流事業(JSPS)など外部資金の申請や国際共著論文の執筆に関する計画も申請書に記載すること。		

2.研究の国際展開を目指す現行制度の現状

国際共同研究促進 プログラム採択実績（件）	2022年度		2023年度		合計
	SU型	共同型	SU型	共同型	
人社系	17	10	7	6(9)	40
自然科学系	10	4	4	5(4)	23
計	27	14	11	11(13)	
合計	41		22(13)		63

※()内は2022年度からの継続案件

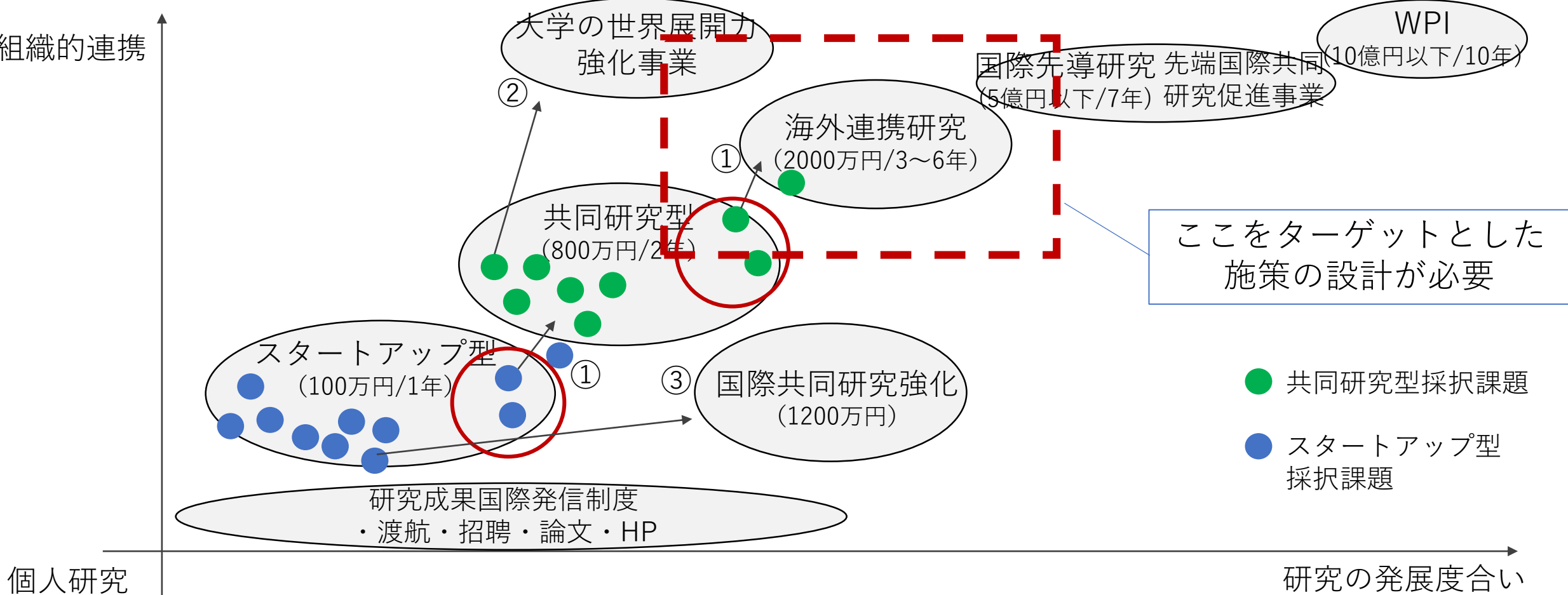
見えてきた課題（仮説）

- ・ 組織間の国際連携にはマンパワーが必要であり専属の研究員を雇用できないか
- ・ 持続的な連携への発展には1年又は2年間の支援では少し足りないのではないか
- ・ 大型プロジェクトの申請採択に向けてはもう一段階の連携体制の発展が必要ではないか

2. 研究の国際展開を目指す現行制度の現状

ステージ0	ステージ1	ステージ2	ステージ3	ステージ4
国際共同研究の立ち上げ期	信頼関係の構築期	国際的なネットワークの強化と成果の創出期	国際的なネットワークの中での中核期	分野における世界トップの研究拠点

組織的連携



個人研究

研究の発展度合い

3. 国際共同研究促進プログラムグローバル拠点型について

支援内容

- 支援上限金額・支援期間：上限1000万円×3年間
- 採択予定件数：2件
- グローバル拠点型の追加要件
 - ・ 研究代表者としての申請資格のある本務教員は、立命館大学の教授、准教授（専任教員であり、原則として本学在職中にプロジェクトを終了する）とする。
 - ・ 国際共同研究の推進に加え、研究マネジメント、国際共同研究拠点としてのプロモーションや拠点の発展に専属的に従事する専門研究員または研究教員（助教）を必ず雇用すること。
 - ・ 募集中の女性研究者国際研究活動支援制度と国際共同研究促進プログラムスタートアップ型、共同研究の重複申請、共同研究型の採択中でも申請は可能
 - ・ 共同研究型と同様、共同研究契約の締結は必要

3. 国際共同研究促進プログラムグローバル拠点型について

本制度の目的

- ・ 海外の有力大学との研究連携および海外研究者との研究ネットワークの形成と国際共同研究を促進することで、RKN (Ritsumeikan Knowledge Nodes) を具現化し、国際的な認知度向上を図ることを目的に、本制度は実施されます。
- ・ グローバル拠点型は、既にある海外の大学等との組織的な国際連携の研究基盤をさらに発展・持続的なものにし、本大学の突出した国際連携研究拠点を構築することを目的として実施します。
- ・ 国際的に認知度の高い研究拠点を形成し、国内外から人・資金・情報等のリソースが集結する拠点の構築を目指す。
- ・ アウトプットのイメージ
世界レベルの新しい知やイノベーションが創出される
(論文、著書、発明、モデルや宣言の提唱等)

3. 国際共同研究促進プログラムグローバル拠点型について

審査基準

下記のポイントを中心に評価を行った上で、総合評価する。

1) 国際共同研究拠点の将来ビジョン

① 国際共同研究拠点の将来的な発展が見込める内容か。

② 国際共同研究拠点を構築することの意義・必要性・優位性が認められるか。

③ 既に国際共同研究拠点として活動を進めている拠点については、これまでの実績、現状と課題を踏まえた上で、既存の取組とは異なる新たな展開を目指すビジョンとなっているか。

2) 国際共同研究の目標

① 3年後に実現を目指す成果について、第4期研究高度化中期計画におけるKGI、KPIを踏まえつつ専門外の研究者が客観的に評価できる具体的な数値を含めた指標が設定されているか。

② 意欲的かつ実現が見込める目標設定となっているか。

3) 国際共同研究の内容、方法

① 本国際共同研究の学術的背景、研究課題の核心をなす学術的「問い」は明確であり、学術的独自性と創造性が認められるか。

② ビジョンや拠点形成、国際共同研究の推進に向けた研究方法等は具体的かつ適切であるか。

③ 研究メンバーや海外共同研究者の役割と研究内容が明確に示されているか。

④ 研究計画と予算計画の整合が図られているか。また、効果的、効率的な予算執行を企図しているか。

⑤ レセプション開催経費に関しては、国際共同研究の促進にあたり、その必要性と意義が十分に説明されているか。(代表者のみ)。

3. 国際共同研究促進プログラムグローバル拠点型について

審査基準

4) 国際共同研究への若手研究者の参画について

- ① 本大学の多くの博士前期課程学生・博士後期課程学生等が継続的に参画する研究計画となっているか。
- ② 相手先大学の多くの博士前期課程学生・博士後期課程学生等が継続的に参画する研究計画となっているか。
- ③ 研究マネジメントや国際共同研究拠点としてのプロモーション、拠点の発展にも従事する研究者の役割が明確に示されているか。

5) 研究業績、準備状況

- ① 共同研究契約締結の見通しが持てているか。
- ② 相手先の研究大学を選んだ理由や本学及び相手方研究大学のこれまでの研究業績等から見て、申請調書に記載されたプロジェクトに対する高い遂行能力を有していると判断できるか。

※研究業績については、立命館大学研究者学術情報データベース（研究者DB）に登録された、過去5年間（2019年4月1日～申請時点まで）の「著書」、「論文」、「研究発表等」の業績を審査時に用いる。

6) 上記に加えて、科学研究費助成事業－科研費－の保有状況と令和6年度分の新規申請実績、外部資金（政府系公募や民間財団等）への申請実績についてはプラス評価する（研究代表者のみ）。

3. 国際共同研究促進プログラムグローバル拠点型について（スケジュール）

スケジュール

2023年12月22日（金）～2024年2月19日（月） 公募期間

2024年2月20日（火）～2024年3月下旬 審査期間

2024年4月上旬 審査結果の通知

（参考）国際共同研究促進プログラム共同研究型・スタートアップ型
～2024年1月23日（火）申請締切り

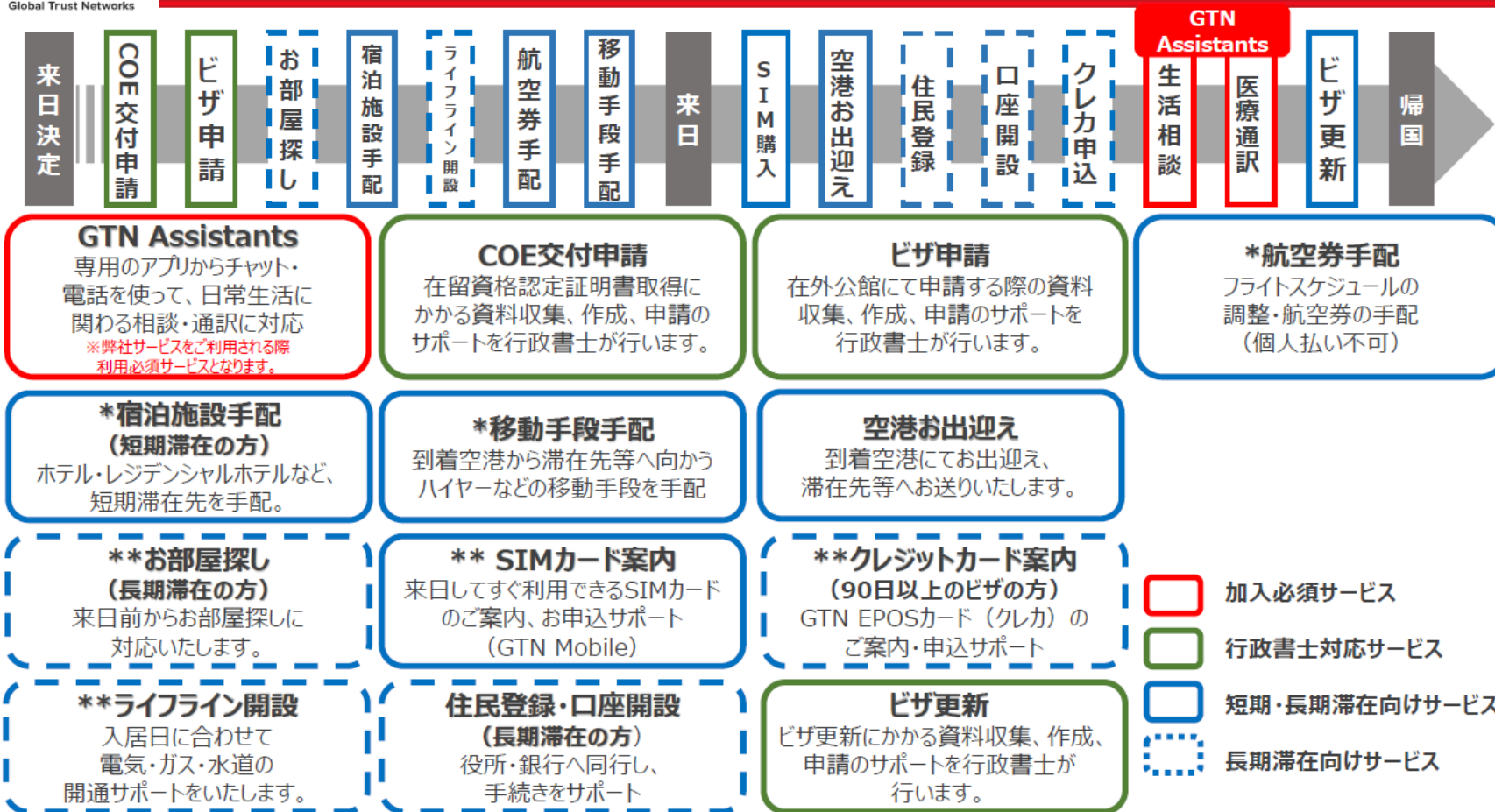
4. 参考情報

GTN社による研究者受け入れ支援サービス ※研究部HPにて説明会動画を配信中

GTN サポートサービス一覧

Global Trust Networks

This material is
Confidential information and
property of the company.



*航空券手配、宿泊施設手配、移動手段手配について、立命館大学の各申請者の研究費から旅費・宿泊費実費を支出する場合のみ利用可能です。（別途必要となる手配料金を立命館大学が負担します。）

来日する海外研究者自身が負担する場合や立命館のセミナーハウス等を宿泊施設として利用する場合等は本サービスは利用できません。

**お部屋探し、SIMカード案内、クレジットカード案内について、利用する場合は来日する海外研究者への直接請求になります。

4. 参考情報

国際関係の 外部資金情報 (文科省関連)

科学技術・イノベーションの戦略的な国際展開

令和6年度予算額(案) 141億円
 (前年度予算額 141億円)
 ※運営費交付金中の推計額含む
 令和5年度補正予算額 146億円



●国際化・国際頭脳循環、国際共同研究、国際協力等に取り組み、科学技術の戦略的な国際展開を一層推進

- 「経済財政運営と改革の基本方針2023」、「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画2023」(令和5年6月閣議決定)等に基づき、G7をはじめとした先進国や友好50周年を迎えたASEANなどの国際共同研究を通じた頭脳循環など、科学技術の国際展開に資する施策を推進。
- 多くの研究者が、海外の異なる研究文化・環境の下で研さん・経験を積めるようにし、研究者としてのキャリアのステップアップと、海外研究者との国際研究ネットワークの構築を図る。あわせて、世界中から意欲ある優秀な研究者を引き付ける魅力的な研究拠点を形成し、トップレベルの研究者をオンラインを含めて迎え入れる。これらのネットワークを活用した国際共同研究を推進することにより、互いに刺激し合い、これまでにない新たな発想が次々と生まれる環境を整備する。(第6期科学技術・イノベーション基本計画)

国・FA主導で取り組むトップダウン型の国際共同研究

日ASEAN科学技術・イノベーション協働連携

令和5年度補正予算額：146億円

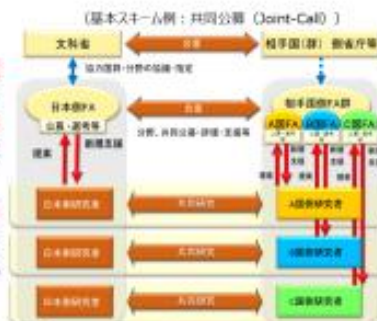
- ◆地政学的変化を踏まえ、ASEAN諸国といった政策上重要な国々との関係強化がより一層重要である。
- ◆ASEAN諸国とは、これまで長年にわたり国際共同研究・研究人材交流を行ってきたところ。これまでの取組を基盤としつつ、国際共同研究、人材交流・育成など、幅広い取組を通じ、持続可能な研究協力関係をさらに強化。



先端国際共同研究推進事業 (ASPIRE)

令和4年度第2次補正予算額：440億円

- ◆令和4年度第2次補正予算で造成した440億円の基金を用いて、政府主導で設定する先端分野において、高い科学技術水準を有する欧米等先進国内のトップ研究者との国際共同研究の実施を支援する。
- ◆共同研究を通じ、国際トップサークルへの日本の研究者の参入を促進するとともに、両国の優秀な若手研究者の獲得及びコネクションの強化も図ることにより国際頭脳循環を推進。



戦略的国際共同研究プログラム (SICORP)

令和6年度予算額(案)：11億円(前年度予算額：11億円)

- ◆新興国や多国間を中心として、多様な分野・体制を設け最適な協力形態を組み、相手国との合意に基づく国際共同研究を推進。

地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム (SATREPS)

令和6年度予算額(案)：19億円(前年度予算額：19億円)

- ◆国際協力によるSTI for SDGsを体現するプログラム。開発途上国のニーズに基づき地球規模課題の解決と将来的な社会実装に向けた国際共同研究を推進。



グローバルに活躍する若手研究者の育成等

海外特別研究員事業

令和6年度予算額(案)：25億円(前年度予算額：26億円)

- ◆博士の学位を有する優れた若手研究者を海外に派遣し、大学等研究機関において長期間(2年間)研究に専念できるよう支援する。

若手研究者海外挑戦プログラム

令和6年度予算額(案)：3億円(前年度予算額：3億円)

- ◆将来国際的な活躍が期待できる博士後期課程学生等を育成するため、3か月～1年、海外の研究者と共同して研究に従事する機会を提供する。

外国人研究者招へい事業

令和6年度予算額(案)：34億円(前年度予算額：34億円)

- ◆優秀な外国人若手研究者等を大学等研究機関に招へいし、我が国の研究者と外国人若手研究者等との研究協力関係を通じ、国際化の進展を図っていく。

国際青少年サイエンス交流事業

令和6年度予算額(案)：15億円(前年度予算額：15億円)

- ◆海外の優秀な人材の獲得、国際頭脳循環、及び海外の国・地域との友好関係強化や科学技術外交への貢献を目的として、科学技術分野における海外との青少年交流を促進する。

4. 参考情報

事業名

海外連携研究・
国際共同研究強化
(国際共同研究加速基金)

地球規模課題対応国際科学技術
協力プログラム
(SATREPS)

戦略的国際共同研究プログラム
(SICORP)

先端国際共同研究促進事業 (ASPIRE) (国際共同研究加速基金)

国際先導研究
(国際共同研究加速基金) 世界トップレベル
研究拠点プログラム
(WPI)

概要

(海外連携研究)
複数の日本側研究者と海外の研究機関に所属する研究者との国際共同研究。学術研究の発展とともに、国際共同研究の基盤の構築や更なる強化、国際的に活躍できる研究者の養成も目指す(国際共同研究強化) 科研費(「基盤研究(海外学術調査を除く)」又は「若手研究」)採択者が現在実施している研究計画について、国際共同研究を行うことでその研究計画を格段に発展させ、優れた研究成果をあげることが目的とするものです。

国際協力によるSTI for SDGsを体現するプログラムであり、開発途上国のニーズに基づき地球規模課題の解決と将来的な社会実装に向けた国際共同研究を推進。出口ステークホルダーとの連携・協働を促すスキームを活用し、SDGs達成に向け研究成果の社会実装を加速させる。

国際頭脳循環への参画・研究ネットワーク構築を牽引すべく、相手国との協働による国際共同研究の共同公募を強力に推進。我が国の国際共同研究の強化を着実に図る。

高い科学技術水準を有する欧米等先進国を対象として政府主導で設定する先端分野における研究開発成果創出を目的とする大型国際共同研究に十分な予算を確保。両国のファンディングエージェンシーが協働しつつ、課題単価や支援機関等を柔軟に設定。国際科学トップサークルへの日本人研究者の参を促進し、国際頭脳循環を推進する。

高い研究実績と国際ネットワークを有するトップレベル研究者が率いる優秀な研究チームによる、海外トップレベル研究チームとの国際共同研究を強力に支援する。さらに、若手(PD・院生)の参画を要件とし、長期の海外派遣・交流や自立支援を行うことにより、世界と戦える優秀な若手研究者の育成を推進(7年(10年までの延長可)5億円以下)

大学等への集中的な支援を通じてシステム改革等の自主的な取組を促すことで、高度に国際化された研究環境と世界トップレベルの研究水準を誇る”国際頭脳循環のハブ”となる研究拠点の充実・強化を着実に進める。

規模・期間

(海外連携研究)
期間 3~6年、2,000万円以下
(国際共同研究強化)
1,200万円以下

期間：3~5年
金額：1億円程度

(二国間共同研究)
期間：3~5年
金額：600万円~1億円/年
(多国間共同研究)
期間：3年間
金額：600万円~1000万円/年
(国際共同研究拠点)
期間：5年間
金額：3000万円~1億円/年

期間：5年間
金額：1億円/年

期間：7~10年
金額：5億円以下

(WPI CORE
(伴走成長方式))
期間：10年間
金額：5~7億円/年

→ 支援規模